

平成27年度 校区外部評価

最終のまとめ

学校名 品川区立御殿山小学校

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、 重点的な実践内容など)</small>	基礎学力とは、「児童・生徒が生涯にわたって学び続けようとする態度とそれを支える知恵」と捉え、自ら進んで学び解決できる子、進んで表現し課題を解決できる子、自信をもって解決できる子の育成を図る。				
	評価指標 (成果指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
		評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見
① 国語・算数の学期末の観点別到達度が学級平均80%以上になる。	A	発達の問題や学習環境の問題から到達度が80%をこえるのが難しい児童が在籍している学級もあるが、概ね80%を超える。学年で、教材研究や指導法の共通理解をして学習内容の定着を図っている。	CRTテストや学力調査で良い結果が出たのは、学習フレームの中に計算練習や国語・漢字の時間を組み込んだり帰りの学習ではきめ細やかな対応をした成果が出たと思います。素晴らしい取り組みを、これからも頑張ってください。先生方の熱心な指導の成果が確実に児童の基礎学力の定着向上に表れている。先生方の自己評価にも表れているように、学校全体が一丸となって、協力して指導された結果だと思います。応援しています。	観点別の到達度は、学級の平均としては80%を超えるが、理解の遅い児童に対する学力向上をおろそかにしないよう留意する。	学期末の観点別到達度は、日々の単元学習の成果が表れる。教員も研究と修養に努めて、日々の授業における指導力の向上に努めていく。
② CRT学力テストにおいて、どの学年も各実施教科の到達度が80%以上になる。	A	昨年度1月に実施したCRTテストはどの学年も全国平均を大きく上回る成績であった。既習内容を中帯・昼帯学習や家庭学習の課題として繰り返し取り組ませ習熟を図っている。		平成28年1月に実施したCRTテストの結果を見ると、全学年全教科とも成果指標に到達している。単元学習とは内容が違う標準テストなので、学習内容を適用させる力も育っていることが伺える。	どの教科も成果指標を達成しているが、教科別に見ると、他教科と比べると理科の到達率がさほど高くない。エコスクールの利点や地域の人材を活用した江戸野菜の栽培、飼育活動なども充実させた。
③ 4学年における品川区学力到達度調査において、4教科とも90%以上の問題で区の到達基準を上回る。	A	昨年度2月の品川区学力調査では4教科とも区の習熟基準を十分上回っていた。応用問題や文章読解問題なども時間をとって多数取り組ませ、丁寧に答え合わせ等をおこなった成果もあらわれていると思われる。		平成28年2月に実施した4年の区学力調査の結果を見ると全教科とも区の平均以上の成績だが、社会と理科は区平均をかなり上回った成績であった。理科と社会は日頃の授業や実生活での体験も学力に左右するので、生活全般での学力向上も視野に入れたい。	4年の学力調査の結果は、1～3年での学習の成果や課題が表れる。学力向上委員会で、課題を十分に検討して、1～3年における学力形成も視野に入れて、学校全体で学力向上に臨みたい。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

<p>本校の基本的な考え方 (特に身に付けさせたい力、 重点的な実践内容など)</p>	<p>社会性・人間性の育成は、基本的な生活習慣はもとより、人間関係の良好な形成や規範意識の高揚と子供一人一人の感性を醸成する活動を十分に与えることによって高められた社会的役割を認知するものであると捉え、これらを通して人間尊重の精神・態度の育成を図る。</p>					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 子ども達は、挨拶運動や日常の学級指導を通して、明朗な挨拶や会釈ができるている。	B	児童や教職員は「あいさつ隊」「あいさつウィーク」などの取り組みを通して、挨拶や会釈を推進する活動を行っている。立ち止まって会釈をするなど、挨拶を意識する児童も増えているが、声が小さいなどの課題がある。	「あいさつ隊」の取り組みは大切です。クラスごとの取り組みなので挨拶について考える良い機会になっている。最近学校を訪問した際、特に、低学年の児童の挨拶が上手になってきました。先生方の率先垂範に敬意を表します	あいさつの取り組みを行うと状況が良くなる。来客に対しても礼儀正しい態度ができた。しかし、3学期に入ると意外と交通指導員への挨拶等が低調になった。意識化と実践化を今後も目指して指導していく。	交通指導員との挨拶は、交通事故防止にも役立つ。児童を支える大人とも日常的に健全な挨拶やコミュニケーションが取れるように指導していく。挨拶が低調になる時期の取り組みも工夫する。	
② 子ども達は、学習や生活の規律を守り、節度のある学校生活が送られている。	B	全体としては学習や生活のきまりを守り、ここ数年の中で一番よい状態である。しかし、細かくみると話の聞き方が身に付いていなかったり、廊下を走ったりするなど規律を守らない児童も見受けられることがある。	学習時間と休み時間を区別して生活できている。規律の守られた落ち着いた雰囲気の中で、子ども達は充実した学校生活を送っている。子どもによって個別的な対応が求められますが、学校全体で共通に取り組む姿勢は素敵なことです。	新校舎での学校生活となったが、大きな事故や怪我がなく安全で落ち着いた生活ができた。新しい学校生活に慣れたところが危険という危機意識を持って、落ち着いた生活が今後もできるようにしたい。	前年度末から生活指導部を中心に安全な生活が保障できるよう学習と生活のルールの検討と徹底が図られてきた。年度途中でのルールの見直しも適宜できた。落ち着いた学校生活は、保護者からもよい評価を得ている。	
③ 子ども達は、学級内の係活動や当番活動、委員会活動などに責任をもって、協力して取り組んでいる。	A	係によって活動の差は見られるが、概ね児童は、役割を分担しながら、自分の仕事に責任をもって取り組んでいる。	先生の丁寧な指導の元に、縦のつながりも大切にしながら活動に取り組んでいる。特に、新校舎になり、新しい発想で活動も想定され、期待しています。	学級や委員会、たてわり活動で特に高学年生の奉仕的な活動が素晴らしい。今後も児童の主体的な活動を大切にしたい。	兄弟姉妹が少なく地域での遊びが不足しがちな本校児童にとって、学級や委員会での児童活動は、極めて教育的な意義がある。今後も充実させていく。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 小中一貫教育の推進

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	・学力向上の観点から		小中一貫教育の最終目標である「自学自習の体得」を目指し、9年生での出口管理を行うために知識・技能の習得から知恵の創造に向けた教育活動を推進し、保護者・児童・地域からの信頼を得る。		
	・人間形成の観点から		「自分も相手も大切に作る」心をはぐくみ、正しい人権感覚を醸成することに努め、「時を守り、場を清め、礼を正す」を全ての教育活動の根底に据えて指導することにより、高い規範意識の育成に努めていく。		
評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
① 教師は、市民科を計画的に実施し、日常においても実践させ、品格ある市民の育成を図っている。	B	計画的に市民科の授業を行うだけでなく、授業後も定期的にふりかえる機会を設けたり、児童に身に付けてほしいことから全校の教職員で共通理解して日常的に継続して指導したりしている。	市民科の授業公開では、子どもが積極的に活動し、学年ごとの取り組みの様子がよく分かり、有意義であった。家庭でも実践したい。	市民科で学習したことを日常生活で活かす力を今後も育てていくように努める。そのために、市民科の学習内容を家庭に積極的に発信していく。	本校児童の落ち着いた生活態度は、市民科授業によって育まれている。校外学習では、学習したことを想起させて乗り物でのマナー、公共の場での行動など、事前、事後にも十分に振り返らせて、市民科授業と関連付けて指導を継続する。
② 学校は、教科担任制やステップアップ学習を推進させ、中学校での学習にスムーズな接続を図っている。	A	ステップアップは、国語を基礎・応用(作文・読解)、算数を基礎・応用(特殊算と図形など)というように6コース選択できるように設け、少人数で丁寧に指導している。作文が今年度だけで5人以上小学生新聞に掲載されるなど、成果はあがっている。教科担任もそれぞれ教材研究を充実させて授業を工夫して行っている。また、5・6年で御殿山漢字検定を実施して、教科書の内容をこえる漢字の学習に取り組ませている。	ステップアップ学習では各自がコースを選び、きめ細かい指導が受けられている。漢字検定は子どもたちのモチベーションを上げる良い取り組みだと思えます。特に、先生方が指導の仕方に工夫を凝らしており、成果も上がってきており、期待しています。	ステップアップ学習は、基礎固めが必要な児童にも発展課題の児童にも対応できるように、5年でも6年でも6人の教師が指導して成果を上げている国語の作文コースで学習したものを小学生新聞に応募して、年間に何回か新聞に掲載もされた。児童の意欲の伸長にも役立った。	ステップアップ学習は、今年度も大きな成果を上げた。教科担任制も安定的に実施できた。平成28年度は、非常勤講師も5・6年の教科担任として指導に関わるようにする。近隣中学校の教師によると、本校出身の児童は、学習態度が良く落ち着いているとのこと。今後も教科担任制を充実させて、中学校での学習に不安なく適応できるようにしたい。
③ 学校は、保幼小及び小中の連携を推進し成果を上げるよう、取り組みを工夫している。	A	幼保と連絡を取り合い、各行事への参観・参加をしている(水泳・運動会・オータムフェスティバル・昔遊び・給食体験・文字の学習体験など)。また幼保の教職員が毎日の本校の職員朝会に参加し、連絡を密にしている。小の教員が中の授業参観をする日、中の教員が小の授業参観をする日が毎年設定され、この日は卒業生の様子について情報交換を行って生徒理解を深めている。	幼保との連携はとても大事だと思います。遊びや給食を通して小学校の雰囲気を感じてほしいと思います。又、中学校との研究協力や合同での研修の取り組みは素晴らしい。	校舎の改築工事の関係で、中止していた連携行事もあったが、新校舎が完成してからは、また交流が推進された。特に、1・2年生が交流するときには、お兄さんお姉さんになったことが実感できるような取り組みにできた。5年生徒の交流では、文字指導等の学習体験もさせてあげられた。	保幼にとっても小学生にとっても大きな成果が上がった。新校舎の施設設備を最大限活用しながら、各種の交流を推進していく。また、平成28年度は、小学校での学習や生活が疑似体験できるスクール・ステイの取り組みも推進していく。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 保護者・地域との連携

<p>本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)</p>	<p>学校・家庭・地域が相互に補完し合う三位一体の融合した関係づくりを通して、三者の責任・役割を明確にし、それぞれが担う体制をつくるため、積極的な交流と意見交換の場を設定していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開や授業公開、ゲストティーチャー、地域教材の活用 ・スポーツ指導者や町会長、青年部との会合や合同レクの開催 ・PTAやオヤジの会との交流 ・PTA、地域行事への参加 				
<p>評価指標 (取組指標)</p>	<p>自己評価</p>		<p>校区外部評価委員による評価</p>	<p>学校から</p>	
<p>① 教師は、保護者や地域の意見や相談に誠意をもって、丁寧に対応している。</p>	<p>評価</p>	<p>評定についてのコメント</p>	<p>自己評価についてのコメント</p>	<p>校区外部評価についての教職員の意見</p>	<p>校長の態度表明</p>
<p>② 学校は、地域や外部人材を積極的に活用して、教育の効果を上げようとしている。</p>	<p>A</p>	<p>大きな行事や学校公開では保護者アンケートを実施し、全教員がアンケートに目を通し、必要な事項は改善を図っている。個々の相談にも誠意をもって対応している。</p>	<p>教師と保護者、地域とが信頼し合い、良い関係を築いているが、保護者アンケート記入内容の共有化を望む。</p>	<p>学校公開、フォーラム、運動会、学習発表会等での保護者や地域の意見を毎回、全教職員で回覧してフィードバックしている。運動会の保護者席等、意見を反映させて改善した次年度用の実施案を1年前から作成して、確実に改善につなげている。</p>	<p>保護者や地域からは、学校に対して好意的で建設的な意見が多く寄せられている。改善すべきは改善していくが、学校としての意図や方針に関しては、学校便りや保護者会等を通して、丁寧に説明を続けて、理解を求めていくことも大切にしたい。</p>
<p>③ 学校は学校便りや学年便り、ホームページにおいて、教育活動を積極的に公開している。</p>	<p>A</p>	<p>昔遊び、歯みがき指導など指導計画にそって出前授業や見学、町探検などを効果的に外部人材を活用できた。2・3年の校外学習では多数の保護者の手伝いをお願いした。6年のドリームジョブという取り組みでは、専門職につく8人の保護者をマイスターとしてお招きして、キャリア教育を実施できた。また、PTA会長に協力いただき、6年生児童による学校紹介ビデオも作製した。</p>	<p>6年生の学校紹介ビデオはとても素晴らし仕上がりで、子どもたちに、多様な体験や学習をさせるため、外部人材などを活用し、特色のある授業を進めている。子ども達の視野が広がってきている。中学校への進学が楽しみです。</p>	<p>しながわフォーラムで上映した学校紹介ビデオは、6年生児童がPTA会長の指導を得て、参加者から好評を得た。外部人材の方々にも、ご支援いただき、今年度も豊かな学習を実現できた。ドリームジョブでは、各方面で活躍する保護者をお招きして、とてもよい将来設計学習ができた。</p>	<p>いづれ本校でも導入される校区協働委員会やコーディネーターを意識して、今まで活用した地域の人材や企業を集約、整理して、今後につなげていく。そのためのデータベースを平成28年度中に作成する。</p>
		<p>学校だより、学年だよりの発行、HPの更新、学校掲示板の掲示物の貼り替えを定期的に行い、学校の様子がわかるように公開している。HPの更新は担当者が積極的に呼びかけて毎月確実に更新している。大きな正門横掲示板も、装飾を工夫し学校の取り組みがよくわかるように親しみやすいものになっている。</p>	<p>HPの学校だよりや学年便りの更新は早くなった。学年ごとの学校の様子の写真はもう少し更新されると良い。正門横の掲示板は読みやすく学校の様子がよくわかる。忙しいですが、応援しています。</p>	<p>以前よりホームページの更新頻度は上がったが、まだまだ不十分と認識したい。特に本校は転入者や外国からの一時在籍者、新1年就学希望が多い学校なので、ホームページを閲覧していただく機会が多い学校と自覚するようにする。</p>	<p>学校便りは毎月1日に定期的に発行されているが、随時閲覧されるホームページはもっと更新を多くしていく。次年度は各学年とも記事を月に1回は更新することを目安にして、コンテンツの充実を図る。</p>

自己評価：A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 環境整備・美化

評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然をより一層豊かにすることとともに環境美化教育の推進、安全で清潔な施設・設備、学習環境を担保し、快適な生活環境・空間を作り、心の安定を保ち、健全な身体を育成する。 ・校舎内外掲示物の工夫。 ・自然環境の設備、校舎内外の整美 ・再開発、自校改築のための安全策 				
① 教師は、教室や廊下など、児童の日常生活環境を整え、学習効果を上げている。	A	教室の整理整頓に努め、児童が落ち着いて学習できるように配慮している。定期的に児童の作品や学習に関する物を、廊下やギャラリーなど様々な場所に工夫して掲示している。	教室の掲示スペースが少なくなったが、廊下やギャラリーに飾られた作品はどれも素晴らしいです。落ち着いた環境の中で楽しく学習できています。	後期に入ってから、教室周辺の掲示面や展示場所が有効に活用されるようになった。特に玄関横の多摩産杉の掲示スペースでの掲示物が多く、来校者の目を引き、大変に好評であった。	新校舎の掲示、展示スペースを有効に活用できるようになった。理科室、図工室、教師コーナーのガラス展示棚にも児童の学習成果が展示できるように活用を工夫していく。
② 教師は、児童に清掃活動に責任をもって取り組ませ、美化意識やその実践力を育てている。	A	新校舎を大切に使うという意識を持たせるように指導している。また、清掃分担を明確にし、責任をもって取り組めるようにしている。ただトイレの使い方などはまだ意識できない所もあるので、表示を工夫する予定である。新校舎での生活の様子をよく観察し、清掃分担場所や清掃方法を今年度のうちから再検討している。	校舎は掃除が行き届いていて、いつ行っても気持ちが良いです。子どもは当然ですが、特に、主事さん方の丁寧な環境整備には感謝しています。広い校舎になったので大変ですが、よろしく願います。	玄関や廊下、階段などは、用務主事が一生懸命に清掃しているため綺麗である。教室近くの手洗い場などは、図工や習字の後には汚れるので、使い方指導の他に、担任による点検や手入れもしっかりと行いたい。	新しい校舎をいつまでもきれいに大切に使うと指導し続けてきた。児童もその期待によく応えてきた。しかし、トイレや図書室の使い方などは、油断すると悪化する。次年度以降も清掃指導やきれいに使う指導を徹底していく。
③ 学校は、掲示物や備品、教具を適切に配置・保管して、環境整備と美化に努めている。	A	備品や教具の保管場所が明確になり、教材コーナーや教材庫を各学年で工夫して利用できるよう利用環境は良くなっている。環境整備日を設定し、全教員で校舎内を片付けるなど、環境を整えている。職員全員で、校庭の旧体育倉庫から体育備品を移動し、園芸倉庫として利用できる状態にできた。	校舎の中や周りもよく整備されている。新校舎の様々なコーナーや空間を活用して、子どもの活動の成果を広めており、楽しい雰囲気が学校に漂っている。	教材教具が使いやすく収納されている。しかし、学習で使用した後は整理状況が悪くなるので、学期初めに教材整備日を設定して、全職員で整理整頓に心がけていく。	教材教具を使用して保管することは、教師の仕事。管理職は、校内巡回時によく点検して、整理整頓を呼びかける。また、職員室の棚には物を置かない、机上には書類を立てない等のルールを徹底させ、情報セキュリティの面からも職員室を整頓する。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 いじめ防止に関する取組み

<p>本校の基本的な考え方</p>	<p>・「いじめは絶対許さない」を学校経営第一の核とし、教員、児童、保護者も、いじめを見逃さないことを徹底する。 ・教職員は全校児童一人一人の様子や言動の把握し、気になったどんな些細な情報も管理職への連絡を徹底する。 ・いじめに発展する言動やいじめを発見した際は、校長が第一の指導者となり、本人及び保護者への指導を徹底する。</p>				
評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
<p>① 学校は、生活アンケートやふれあい月間、いじめ対策委員会など、計画的・組織的に取り組んでいる。</p>	A	<p>毎月実施している児童理解研修会では、テーマを設定し計画的に行い、児童、学級、学年の様子を把握することに努めている。生活アンケートで気になる児童には、一人一人の児童から事情を聞いて対応している。代表委員会による「まなぶん まなみちゃんキャンペーン」などマナー向上の取り組みを通し、いじめの未然防止に努めている。</p>	<p>アンケートや休み時間、給食時間等から気になる児童に気づいたら早めの対策をお願いしたい。一人一人の子どもの実態が異なっており、対応が難しい面がありますが、どの子にも手が届くようお願いいたします。</p>	<p>日常の様々な場面で児童の気になる言動に注意を払っている。本校は、家庭や校外での様子が把握しにくい実態があるので、保護者や他の児童からの情報提供をしっかりと把握するようにする。</p>	<p>「いじめは、いつ、誰にでも起こり得る」という認識を職員全体で忘れないようにする。そのために、服務研修を確実に実施して、その感度を鈍らせないようにする。また、他校で起こった事例やニュースなどにも敏感に反応して、同様の事例が自校にもないかを常に点検する。</p>
<p>② 教師は、日頃よりいじめにつながる可能性のある事例や虐待の発見に努め、迅速・丁寧な児童にも保護者にも対応している。</p>	A	<p>毎月の児童理解研修会などで職員間で情報共有して、子どもの変容に気付き、学校全体で把握し、関係する教員やスクールカウンセラーで対策を練り、問題が深刻化しないよう速やかな対応に努めている。管理職、スクールカウンセラーなど担任以外にも相談を寄せる保護者もいることは、学校として良い状態と思われる。</p>	<p>配慮を要する児童の情報を学校全体で共有している。現在不登校の児童がゼロというのは早めの取り組みの成果だと思います。スクールカウンセラーの活用と学級担任との協力協働に期待しています。</p>	<p>スクールカウンセラーへの保護者の相談件数が増えた。特に低学年保護者が多い。いじめのみならず、登校しぶりや不適應の問題にも、きめ細やかな対応をしていきたい。</p>	<p>今年度はいじめ事例もいじめにつながる可能性がある事例もなかった。しかし、児童の人間関係は常に不安定で変化しがちであることを肝に銘じて、小さな現象のうちから早期発見していくことを常日頃から職員や保護者に呼びかけていきたい。</p>
<p>③ 教師自らが、人権感覚を磨き、行動や言動には細心の注意を払うように努めている。</p>	B	<p>教師は子ども達の人権への配慮を意識して指導しているが、指導する言動が厳しなり過ぎることがあるので、冷静な指導に心がけていきたい。また、作品の展示方法や名前の呼称、外国籍児童に対して、人権的な配慮を心がけていきたい。</p>	<p>授業中の教師の言葉が気になるクラスがあった。学校全体で指導体制を共通に進めていきたい。</p>	<p>叱責したり徹底したりするときに、教師が乱暴な言葉遣いをしないように気を付けたい。また、外国からの転入も多い学校なので、名前の読み方や表記についても、細心の注意を払うようにする。</p>	<p>人権感覚は知識の習得で終わるのではなく、常に磨いていって、その感度を高めるようにする。そのために、人権教育プログラムを活用したり、服務研修を充実させたりする。</p>

自己評価：A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目7 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方	一人一人の児童の特性や個性・能力に応じた指導体制・内容、授業方法を取り、適切な学習環境を設定し、学力に特化した学校を創る。 ・学力の定着と向上。 ・様々なかかわりのできる子の育成。 ・健康教育の推進				
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
		評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見
① 学校は、落ち着いた生活、安定した学力を第一の特色として成果を上げ、保護者や地域の信頼を得ている。	A	新しい校舎で新たにがんばろうという意識が児童も教職員もあり、落ち着いた生活をしている。そのためか、学区外からも多くの就学希望者がいる。各行事や学校公開での保護者アンケート等でも概ね信頼を得ていることが伝わってくる。児童の様子で気になることがあるときには、速やかに他の学年の担当や生活指導担当、管理職等も加わり、対策を練っていることも落ち着いた学校づくりに役立っていると思われる。	新校舎の教室の配置や特別教室などに慣れ、子どもたちがのびのびと学校生活を過ごしていると思う。校舎が新しくなり、子どもたちは前より活発に明るくなったと思う。学校の生活や学習面でとても良い効果を上げており、保護者の信頼につながっている。	落ち着いた生活、安定した学力については、学校公開等で直接、児童の姿として、見ていただけている。そのため、本校に転校や就学を希望する児童が拡大している。落ち着いた生活と安定した学力は、多くの取り組みや協働、努力や克服の積み重ねで実現していると考えられる。	多くの保護者の信頼を得ていることは、就学希望者の多さからよく認めることができる。しかし、人が入れ替わったり受け持つ学級が変わったりすることで、指導方針や対応がずれてくることも危惧される。学校としての経営方針や教育課程を全教職員が共通理解して揺らぐことのない指導を実現していきたい。
② 学校は、朝読書、読書旬間、図書ボランティアなどを充実させ、読書活動を推進している。	A	図書スタッフや図書ボランティアの協力も得て、各授業に関連した資料や本をそろえたり、読書旬間には兄弟学年での読み聞かせやパネルシアターなど様々な児童の読書意欲を増す取り組みが行われている。朝読書も定着し、児童はよく本を読んでいる。	メディアセンターの充実により図書に親しみやすい環境が整っている。朝読書は、わくわく読書ミステリーツアーや交流読み聞かせ、和室での読み聞かせ等、子どもたちに興味を持たせる工夫が素晴らしいと思う。	読書指導担当教員、図書館スタッフ、ボランティアの尽力もあり読書指導が年間を通して充実している。しかし、未返却本や利用指導に関しては、まだまだ油断せずしっかりと指導していきたい。	本校においては、読書旬間の取り組みが充実していて、毎回わくわくするイベントが計画されている。作業計画会議でイベントの企画や問題点の指摘があるので、指導にうまく反映させていく。
③ 学校は、体育授業、体育行事、食育などを充実させ、体力づくりを推進している。	B	体育朝会、学年タイム、なわとびタイム、長縄タイム、長縄集会、なわとびカード、スポーツトライアル、駅伝への参加など全校で運動に取り組む機会を定期的に行っている。また、放課後に教員の体育研修会を定期的に行い、教員の指導技術の向上を図っている。ただ、スポーツテストの結果や児童の様子をみると、さらに体力の向上を図る必要がある。栄養士・養護教諭の市民科・保健の授業、毎日の給食時に栄養士が各学級をまわったり、その日の献立に関する栄養や食品についてお昼の放送で紹介したりするなど、積極的に食育や健康教育を行っている。	休み時間に上履きのままウッドデッキで遊べたり体を動かせる環境が良い。校庭も整備され体育朝会、なわとびタイム等を通じ体育に親しみ体力づくりをしてほしい。給食の献立はメニューだけでなく写真がHPに記載されている。行事食やテーマに沿った献立など工夫がみられる。	本校児童はスポーツテストの結果は低調である。家庭や帰宅後に運動に親しめていない児童が多い。長縄集会で記録にチャレンジしたり、マラソン週間の取り組みをしたりして、できるだけ学校で、運動への意欲づけをしてきた。体育部を中心に児童の体力向上に努めたい。	オリンピック・パラリンピック教育とも関連付けて、体力向上の取り組みを一層加速させたい。そのために、現状の取り組みの期間を延ばしたり、取り組み機会を増やしたりして、取り組みを強化する。食育も引き続き充実を図る。低学年での野菜の皮むき体験の他に、安全で落ち着いた給食も継続させる。また、アレルギー対応も確実に行うために、代替食や除去食の確認を毎日、教職員全員で行う。

自己評価：A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない